

国民の幸せと  
喜びを支えたい



河野 恭子 かわの きょうこ  
審議官（統計、総合政策、政策評価担当）

平成5年労働省入省。内閣府や地方自治体（久留米市保健福祉部長、岐阜県子ども・女性局長）への出向も経験。4つの課長職を務め、大臣官房公文書監理官、中央労働委員会事務局審議官を経て令和6年7月より現職。

### 河野審議官からのメッセージ

厚生労働省は、国民の生きる幸せ、働く喜びを支えるチームです。少子高齢化等の変化も踏まえ、個人でも企業でも解決できない課題に対応した制度を、豊かな創造力により構築していく必要があります。この大変だけれどもやりがいのある仕事をやってみたいと思う方、是非チームに加わってください。

### 厚生労働行政官としての思い

#### 育てられた

1993年（平成5年）に労働省に入省しました。大学時代を脳天気にお過ごしていた私は、民間企業の就職活動で「男女の区別」を実感し、驚愕しました。霞ヶ関の採用は「スーパーパーソン」だけの感じもありましたが、「並み」の私は以前から複数の女性を採用していた労働省に何とか入れてもらい、育ててもらいました。

#### 過去から未来へ

2006年（平成18年）に配置された安全衛生部では、昭和30年代以降のトンネル建設工事で粉じん作業に従事した労働者が「呼吸困難等の大変辛い症状を引き起こすじん肺に罹患した責任は、防じんマスクの使用や粉じん濃度測定義務付け等の規制権限を行使しなかった国にある」として全国各地で損害賠償請求した訴訟を抱えており、地方裁判所で敗

訴が続いていました。

私は法規担当の課長補佐として訴訟対応に当たるとともに、トンネル建設工事においてじん肺防止対策をさらに強化することが可能なのか、ゼネコン各社のトンネル担当者、防じんマスク等の専門機関や工学の有識者等に相談に行っていました。圏央道建設現場だったと思いますが、トンネル掘削現場を見せてもらったこともあります。技官の諸先輩に助けてもらいながら理解を進め、自分の言葉で対策強化を説明できるようになりました。その後、政治合意に基づき、国はトンネルじん肺防止対策強化を約束し原告は請求を放棄するという和解が成立し、和解の半年後に対策が強化されました。

20年経とうとするいまでも、将来にわたって安全なトンネル工事現場となるよう知恵をくださった官民の皆さんと交流が続いています。

#### バトンをつなぐ

2007年（平成19年）、課長補佐として労災保険を担当しました。複数就業の場合の労災補償の在り方について課題として引き継ぎましたが、副業を認めている企業が少ない中で、海外調査等もやったものの具体的な検討まではしませんでした。

2017年（平成29年）、課長として再び労災保険を担当することになりました。副業・兼業を取り巻く状況は変化し、促進に転じていました。10年前に時期尚早とされた、複数就業の場合の労災補償に関する論点について整理をするなら今しかない、課長補佐や係長と一緒に、有識者の助言も得ながら整理しました。その後は後任の課長にバトンを託し、本格的な検討と法改正が行われました。

### わたしにとって厚生労働省とは

若い頃は、自分だけで課題を背負っているような悲壮感を持って仕事をしていました。ポジションが上がると役割が広くなり責任も大きくなりますが、不安よりも、新しい仕事、新しい仲間との出会いに対するワクワク感が大きくなっているのは不思議です。

昔、子育て中の市民に、「子育てはラグビー（楽苦美）」（大日向雅美先生）という言葉を贈ったことがありま

す。子育ての主役は子ども（ボール）、チームプレーのラグビーと同じように、みんなで守っていく、みんなで出来ることを分かち合っていく、楽しいこと、苦しいことをみんなで分かち合っていくと、あとで振り返ると美しい日々だと思えるという趣旨です。私にとって厚生労働省の仕事は「楽苦美」です。





一度きりの人生を  
思いっきり楽しもう！

鹿沼 均 かぬま ひとし  
社会・援護局長

平成2年旧厚生省入省(平成入省と騒がれたのも今は昔)新型コロナ下での菅総理秘書官時代を含め、官邸に6年半勤務。全体を調整する内閣官房・内閣府や省内の大臣官房に20年近く勤務するという特異の経歴。地方勤務は香川県庁でこども行政を担当。政策統括官、保険局長を経て令和7年7月から現職。

### 鹿沼局長からのメッセージ

就職は人生の大きな決断です。選択に迷っている人も多いでしょう。仕事の内容はもちろんですが、会った人たちや職場の雰囲気を見て、その職場で生き生きと働いている姿を思い浮かべられるかどうか。周囲の意見も大切ですが、最後は自らの直感が重要です。あなたとともに、国民生活の安心安全を支えていきたいですね。

### 厚生労働行政官としての思い

#### 子ども手当、40代での経験

平成22年夏、民主党政権の看板施策である「子ども手当」の担当室長に着任。当時、財源問題をめぐって地方が強く反発し、地方団体の会長から直電があることもしばしば。法案提出後も、与野党逆転という厳しい政治情勢の下、永田町を飛び回って調整に明け暮れる日々を過ごしました。結果として、手当が支給できないといった最悪の結末を回避できたことは、ある意味奇跡だったかもしれません。当時まだ40代でしたが、省内幹部との意思疎通を図りながら戦略を共有し、関係者との調整においても、それをベースに、自らの責任でその場で判断し対応できたという経験は、その後につながる貴重なものでした。

#### 官邸の中核でこの国の危機管理を担う

菅官房長官、菅総理の下での6年半に及ぶ官邸生活、中でも思い出深いのは新型コロナ対策です。国民の生業と

感染拡大防止の両立に向けて土日返上で困難な対応に迫られていましたが、当時ゲームチェンジャーとして期待していたのがワクチンです。総理の1日100万回接種という宣言のもと、厚生労働省をはじめ関係省庁に号令をかけ、大胆な規制緩和や支援措置を講じ、当初はとても無理だと言われていた数値目標を大幅に超える接種数を達成。令和3年秋の急速な感染の終息、さらには、強い感染力はあるものの重症化しにくいオミクロン株への変異につながる一因になったと思っています。肉体的には大変な日々でしたが、国家の危機に関わる事態に深く携わることが出来たことは、役人冥利に尽きる経験でした。

#### 従来の発想にとらわれず、この国のために行動する

官邸での経験を買われ、オミクロン株が最初に感染拡大した沖縄に1ヶ月間出張し、政府側の責任者として対策に当たりました。オミクロン株に対して

はそれまでと違う発想での対応が求められ、特に問題だったのが濃厚接触者への対応です。従来の14日間の自宅待機では、濃厚接触者となった医療従事者等が出勤できず医療や福祉の崩壊が生じかねない、さらには離島航路のパイロットが不足するなど、社会経済活動に深刻な影響が出始めました。一方、気道の上で発症するため、早期にウイルスを排出しやすく、科学的にも短縮可能との指摘もありましたが、初めてのケースでもあり政権中枢部の慎重な姿勢が変わりません。そこで、官邸幹部に直接メールし、対応は待たないでほしいと、将来的に日本中で社会経済活動が停止しかねないことを直言し、待機日数の大胆な短縮を実現できました。山が立ち塞がってもあきらめない、そして国民のためにやるべきことをやる、官邸で学んだ経験です。

### わたしにとって厚生労働省とは

「少子高齢化・人口減少が更に進む中、国民生活の安心・安全の基盤とも言える社会保障制度が引き続きその役割を果たしていくこと」、やるべき目標は明確ですがそこに至る道筋は、様々な変数や利害関係が複雑に絡み合った難解なパズルのようなもの。そうした人生をかけるべき重要なミッションを私に提供してくれるとともに、自分自身を成長させてくれる職場です。また、そこで働き、一緒に困難な仕

事に立ち向かってくれる職場の仲間たちは、国民の暮らしを守るための同志であり、ともに学び、成長し、刺激し合う存在でもあります。同時に、ひとたび仕事を離れば、アフター5を全力で楽しみ、お酒を酌み交わしながら語り合うし、時には休みの日に一緒に遊んだり、旅行したりする友でもあります。やりがいあふれる仕事と最高の仲間たちに囲まれた場所であり、自分の人生を楽しく豊かなものにしてくれる存在、それが厚生労働省です。

